

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-------------------|-----|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践事項 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 職員による申し送りの際、理念を念頭に置いた具体的な引継ぎを行っている | ロビーに理念を掲示し、職員の申し送りの時に、それを確認しながら、具体的な支援の引継ぎをしています。 | 理念を支援の実践にどう生かしていくか、この試行錯誤の積み重ねと深堀の上に、施設独自の生きた理念を作り上げていくことを期待します。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | コロナ禍の中で配慮しながら個別・短時間でスーパーなどに出かけている | 利用者が地域とのつながりを失わないために、コロナに配慮し、1～3名程度の小グループに分け、短時間の近隣の散歩や、スーパーでの買い物をしています。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 車椅子の貸出等を無料で提供している。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ対策のため、年6回書面にて行い、意見や質問を徴収し、議事録を配布している | コロナ対応のため、運営推進会議は書面形式として、年6回行っています。送付先から意見や質問を集め、議事録として保存しています。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議を通して包括支援センターの職員の方、市職員(年1回)の方と情報交換を行っている。現在、介護相談員の方の活動はコロナのため活動休止中 | 市町村の担当者との連絡は、月1回の来訪と年1回の運営推進会議の他、協議会、電話連絡を通じておこなっています。現在はコロナ対応のため書面でおこなっています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 利用者の立場を考えた対応に取り組んでいます | 玄関の施錠は交通安全のため行っていますが、拘束は行っていません。拘束を行わないためにどうすればいいかは、担当者会議や引継ぎ時に話し合い決定しています。 | 話し合いの結果は議事録にとどめて、利用者家族からの要求に応えられる他、地域への発信に使えるように工夫しましょう。 |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 見たり聞いたりした時には必ず報告する義務があることを話している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践事項 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修に参加し、研修内容を回覧している。現在、2名の方が後見人制度を利用している。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 担当職員が十分説明している。又機会あるごとに質問に関しては十分説明している。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 家族からのご要望は少なく、面会時や電話での近況報告時に要望をお伺いしている。 | 利用者や家族が遠慮して意見を言えないという雰囲気のないように、面会時や散歩の時など要望を引き出すように工夫しています。また、家族からは電話での近況報告時に聞き出す努力をしています。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 日常的に職員からの意見を聞き、その都度問題を解決している。 | 利用者の転倒防止のためのマットを敷くこと、既存のトイレドアを外しカーテンに変え利用者が使いやすいするなど、日常的に職員の意見を汲み上げ実践につなげています | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 希望休や年次有給休暇の取得をしやすくしている | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 事業所内外の研修を始めとし、各研修についても、全ての人を受けられるよう配慮している。新人に関しては、3ヶ月、半年、1年と各項目に到達度を記入してもらい、自覚を促している。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 松戸市グループホーム連絡協議会の研修に参加している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------|-----|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践事項 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 声掛けを頻回にし、可能な限り要望に応えるようにしている。 事前に訪問し、情報を得てアセスメントに活かしている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 訪問時に積極的に声掛けを行い、来られない方には電話対応している。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 入居時のレベルに応じ、他機関等の情報も収集し紹介等している。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 個別の対応に重点を置き実施している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | お互いの関係を築き、よく協力し合っている | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナ禍での面会は困難であったが、電話でのやり取りなどの工夫をした | 利用者は、電話をかけてみたい時やかかってきた方時は、職員がついて話しをしています。また、ホワイトボードを活用して玄関先で窓越しの面会も実施しました。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 利用者、職員等を交えたレクリエーション等を計画し、各ユニットで実施した。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践事項 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 他施設に転居された方に関しては、相談支援に努める。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 普段の会話の中で、本人の思いを汲みとったり、家族からヒントを得たりしながら意向の把握に努める | 自分で洗濯したい人、居室内を清掃したい人には、場所や道具を提供するなど利用者の意向を日常の支援から汲み取り実施しています。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 一人一人聞き取りを多くし、家族からも情報収集している。身寄りのない方については情報量が少ないのが課題。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 毎日記録し、現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 日常生活での本人の課題をノートに記載、可視化し課題抽出に努めている。また、月1回のモニタリングを行い、サービス内容の確認を行っている | 日常生活での利用者本人の課題をモニタリングノートに記載し、サービス担当者会議でサービス内容の検証と改善に取り組み介護計画に組み込んでいます。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 毎日記録している個人ファイルは、どの職員が記録してもよいことになっており、情報の共有化が出来ている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ニーズがあれば情報提供している | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践事項 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 積極的に地域のボランティアや消防、教育機関等と協力している。定期的なボランティアによる演奏会の開催をしている。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 主治医は本人及び家族が選択し、往診希望の場合は月2回の診察を行う。受診先が違う場合も家族の協力を得ながら、受診体制を整えている | 入居前からのかかりつけ医の通院を希望している入居者は3名で、3名の方は家族同伴かスタッフ同伴で通院支援を行っています。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 常勤看護師が在職している。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時の面会は必ず行っている。看護師も病院側と情報交換をケースワーカーと行っている。現在コロナ禍のため電話での対応。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 重度化及び終末期の対応指針を契約時に説明をしています。終末期ケアの同意書を作成し、医者や家族、ご本人及びスタッフ同伴で話し合い、支援に取り組んでいる。 | 医師の意見を基にご家族と話し合い、終末期ケアの同意書もらっています。その後1っか月ごとにケアプランを提示しその都度署名を頂いています。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 蘇生法の訓練を消防士によって研修している。今年度はコロナ禍のため中止、スタッフのみ | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 年4回の避難を含めた訓練を行っている | 令和2年はコロナのため消防署立ち合いの訓練は実施していませんが、通年は年3回、初期消火、蘇生法、夜間想定訓練を行っています。地域とは町内会長さんを通じ声掛けしています。 | 火災や地震、水害等の避難訓練を地域の方々と行い協力体制を築くことに期待します |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践事項 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 接遇マニュアルにてその人に会った言葉使いを用いて対応しているが、日常的な会話の中では言葉使いの配慮に欠ける所もある。 | 言葉使いについては、気が付いた時点で、その都度、管理者や介護リーダーが積極的に注意等をおこない。利用者の人格を尊重した支援を行っています | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 基本的には自己決定して頂いているが、決定困難者については、体調、気分を考慮し、働きかけをしている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 出来るだけ意向を優先し可能な限り要望に応えるよう支援しているが、充分とは言えない。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | ご本人と話し合い、出来るだけ実現出来るよう支援している。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 誕生日にはご本人の好きな物の提供や、日々会話の中で食べ物のお話をし、その方の嗜好を知る。やきそば、焼うどんなど各フロアでその場で作り楽しめる食事を提供。 | 食事のとりわけや後片付け、食器を洗ったりなど行っています。手作りのホットケーキ、お団子等を作り、利用者が楽しんでいます。また、利用者のお誕生日では特別食が提供されて、笑顔が出る支援をしています。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 必要に応じチェック表を作成し、記入している。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 口腔ウエットや口腔スポンジを利用し、実施している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践事項 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 個々の残存機能に合わせて、排泄支援を行っている。また、できるだけトイレ誘導を行い、オムツ排泄からトイレでの排泄を可能な限り行っている | 5名の方が布パンで過ごしています。夜間はトイレ誘導したり、ポータブルトイレ利用の支援を行いトイレの自立を目指しています。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 高齢による機能の低下等を考え、厨房スタッフとの献立の検討や積極的体を動かすに支援を行っている。また、ヨーグルトや乳酸飲料の摂取を行っている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 風呂場が一カ所(地下)である為、基本的には週2回、各フロアごとの入浴で対応。 | 入浴の順番は利用者の希望に配慮した支援を行っています。菖蒲湯やゆず湯等で楽しんでもらっています。また長風呂や歌など歌い自由にお風呂を楽しむ支援を行っています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 個々に合わせ日中の休息を取り入れている。また、外出や軽作業、制作など本人の好きなことができるよう取り組んでいる | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬剤師が来訪し、配薬している。 看護師が管理し、指示通りの服薬が出来ている。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 個々に合わせた外出、軽作業や散歩などを取り入れ気分転換を図っている | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナ禍での外出支援は以前に比べかなり減っているが、近隣の散歩などを取り入れ外出の機会を作っている | コロナ禍でも閉じこもることなくマスクをつけて施設の前で外気浴やリハビリを兼ねて施設の周りを散歩し五感で感じてもらう支援をしています。外に出ると皆さんが笑顔になります。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践事項 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 一部の利用者のみ実施。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 可能な方には支援する。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 毎日の掃除は欠かさず行い、生活し易いように整理整頓、道具の配置など利用者と一緒に考え支援する。 リビングには、季節に応じた花や飾り物、制作物等を飾っている。 | 毎日の掃除や生活しやすい整理整頓を利用者と一緒に行っています。リビングには季節に応じた花を飾り四季を感じる支援をしています。飾り物を利用者と一緒制作して楽しく居心地良い共有スペースを作っています。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 限られた空間の中を利用し、くつろげるよう支援する。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室は和室ですが、車椅子に対応するときには硬質のマットを敷く等の配慮をしています。本人の好みにより布団かベットが利用できます。使い慣れたものが置いてあります。 | 居室は今までの生活が途切れないように使い慣れたものが置いてあり、壁には思い出の写真や家族からの手紙を飾り居心地よく過ごせるように支援をしています。またベットでも布団でも利用者の希望に応じた支援を行っています。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 段差の解消や、手すりの利用等により、自力歩行を促す支援、筋力維持に努めています。 | | |